

潮来市の誇れる文化

第139回

まごまいづか 子子舞塚古墳出土品

市指定文化財
所在地 潮来市牛堀一八九

潮来市には県内でも有数の古墳群が形成されています。大生西部古墳群、大生東部古墳群、カメ森古墳群、田の森古墳群に大別されており、大生神社西側の県道矢幡潮来線近くには大生西部古墳群が形成されています。

県道からも印象的な姿がうかがえる鹿見塚古墳の西方に位置する子子舞塚古墳からは、玉類、銀銅環、直刀九振他、多数の埴輪などが出土しています。

昭和二十七年から五期に渡り行われた、国学院大学の大場教授の発掘調査には大勢の大生原村の方や中高生も参加しました。

鹿島神宮と密接な関係のあった多氏一族は、大生神社を中心とする大生原台地にも集落を形成し、六世紀末から七世紀にかけて百十余基の古墳を築造したと言われています。

出土品は潮来市立図書館郷土資料室に保管展示されています。充実した空間の図書館を訪れながら、展示室を訪ねてみてはいかかでしょうか。広くはありませんが、古墳出土品から昭和の資料まで、郷土の様々な展示がされています。身近

な施設の展示を通して郷土を再発見されてみてはいかがでしょうか。

(参考文献)

常陸大生古墳群 潮来町教育委員会編
ふるさと潮来 潮来市郷土史研究会編
潮来のあゆみ 植田敏雄 著

潮来町教育委員会編
潮来市の文化財―増補版―

潮来市教育委員会編

潮来の古代を考える 窪谷章編

図説鹿行の歴史、茨城県の歴史シリーズ

植田敏雄 監修 郷土出版社編

潮来市文化財保護審議会委員

小沼 竹男



子子舞塚古墳出土品 (埴輪)
(潮来市立図書館 郷土資料室にて撮影)

潮来市の誇れる自然

第77回

水郷の魚たち ―農業水路に暮らす絶滅危惧種―

古くから水上交通の要所として栄えた潮来には、舟運のための大きな水路が残されており、まさに「水路のまち」のイメージ通りです。これとは別に、霞ヶ浦・北浦周辺の水田地帯には、小さな水路が網の目のように張り巡らされています。これらは田んぼのイネを育む水の通り道「農業水路」です。この地域の田んぼに供給される水は、湖近くの揚水機場から強力なポンプで供給される湖水がほとんどですが、谷戸などの湧水が水源の場合もあります。どの田んぼの排水も、水路を通じて湖やその流入河川へ流れ込んでいます。

田んぼの水路は魚の子供たちのゆりかごであることは知られていましたが、これまで湖周辺の水路での調査事例は少ないのが実状でした。私たちが潮来市大生・釜谷地区の農業水路(谷戸の湧水が水源)で1年間、湖から水路へと遡上する魚類を調べたところ、この水路が小型ハゼ類3種(地方名は「ゴロ」で、佃煮として加工されるもの)のほか、ドジョウやタモロコ、フナ類

などの成長や繁殖の場となっていることがわかりました。

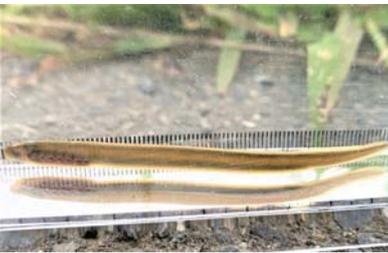
次に、北浦流域の農業水路計約300地点で魚類調査を行ったところ、計28種の魚類が確認されました。湧水が水源の水路では、スナヤツメやホトケドジョウ、在来タナゴ類などの絶滅危惧種の新たな生息地が見つけられました。一方で、湖の堤防近くのよごんだ水の水路では、湖のように外来魚が多かったのですが、水生植物帯でミナミメダカやキンブナといった絶滅危惧種も見つけられました。ただ、どこも危機的な生息状況でした。水路の貴重な魚たちを私たちの将来世代に残すには、それぞれの生息地をモニタリングしながら、水生植物帯や湧水環境の保全、護岸や落差工の構造の改良などを通じて、原風景的な水路を保全・再生していくことが急務です。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション

浜野 隼・木村 将士・加納 光樹



絶滅危惧種キンブナ



絶滅危惧種スナヤツメ北方種の幼生



北浦周辺の農業水路